

文学部通信教育課程

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

文学部通信教育課程では、卒業論文を必修とし、研究の成果を的確に文章化し、自ら課題を設定して主体的に研究する力の育成に重点を置いている。web 通信学習相談制度、スクーリング時の対面指導、メディアスクーリングを通じて、適切な指導が行われている。学習指導改善のため、卒業保留・留年、休・退学状況を把握し、模範レポートの提示、課題や試験の難易度の検討、教科書改訂、メディアスクーリングの充実、GIS 学術士取得に向けた対応を行った点は高く評価できる。成績分布の把握については今後の改善が期待される。

「卒業論文」に必要な要件を定め、その評価を通じて、学習成果を測定している。学習成果を把握・評価するための具体的な取り組みとして、優秀な卒業論文は学内誌に掲載するほか、地理学科では、優秀者に全国大会での発表機会を与えている。

アクティブ・ラーニング、双方向型授業の有効な導入事例を共有するなど適切な教育方法をとっている。メディアスクーリングや教員の負担については、学部・学科内で議論されることに期待したい。また、履修証明プログラム等については、引き続き検討が望まれる。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

本年度も前年度に引き続き、各学科で卒業保留・留年、休・退学への対応策の検討を進め、1.1①に記載したとおり、カリキュラムの改正、メディアスクーリングの導入、教科書・教材の更新・新規作成等の対応を図った。ただ、休・退学者等への対応としては、大学での学習の仕方やレポートの書き方等を丁寧に教える方策を充実させることが重要である。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響でその機会をほとんど持てなかったこともあり、次年度以降、各学科で学習指導の拡充について検討を進めてゆきたい。また、成績分布の把握については、その必要性は認識されながらも、実行に移すことはできなかった。次年度への課題として引き継ぐとともに、例えば、史学科では毎年度、レポート課題の適切性を確認しているの、こうした取り組みとあわせ、各学科で検討を行うこととしたい。

通信教育課程を担当することによる教員負担の解決方法を見いだすことは困難で、本年度、その議論が進むことはなかった。ただし、通学課程でのオンデマンド授業の拡大を受け、通学・通信教育両課程における授業コンテンツの共有が、解決方法の一つになると思われる。今後の検討に委ねたい。また、2021年度よりリカレント・通信教育センターが発足することにもない、他組織と協力することにより、これまで以上に通信教育課程の教育活動を社会貢献に活用する体制が整った。こちらも、次年度より積極的な検討を進めたい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

文学部通信教育課程の2020年度の評価結果への対応について、卒業保留・留年、休・退学への対応策として、カリキュラムの改正、メディアスクーリングの導入、教科書・教材の更新など教育内容を向上させると同時に、レポートの書き方などへの学習指導をきめ細かに行うなど具体的な対応策がなされた。COVID=19 下の状況で学習指導が思うように行えなかったとの評価も書かれているが、実施できなかったスクーリングをオンラインに切り替え補充・拡大するなど、目標実現にむけて最大限の努力をした点は高く評価できる。

学習状況の把握について、進級状況は学科ごとに把握されているが、成績状況の把握を改善していくことが望まれる。

一方、教員負担の問題については、解決方法を探っている状況である。オンデマンド授業の拡大を受け授業コンテンツの共有が検討される予定である。2021年度の目標に教員・教員組織の多様性確保ほかの検証があがっており、望ましい教員・教員組織のありかたについて議論がすすむことを期待したい。社会人への学修の機会を広げる方策として履修プログラムの活用について、リカレント・通信教育センターとの協力を積極的に推進することが検討されており、それによる成果も期待できる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

各学科とも教育課程の編成・実施方針にもとづき、適切な教育課程・教育内容を提供している。すなわち、専門教育課程では学科の専門領域に関する基礎的な知識の涵養から、具体的な研究テーマに対する深い考察まで、幅広くかつバランスよく学べる教育課程を設けている。また、卒業論文を必修とし、研究の成果を的確に文章化する力や、自ら課題を設定して主体的に研究する力の育成を重視している点も、学科共通の教育課程の特徴としてあげることができる。加えて、3学科とも教員免許状取得に必要な教

育課程を編成している（地理学科ではさらに測量士補の資格取得が可能である）。一方、専門教育課程に加え、一般教育・外国語・保健体育から成る教養課程を設け、幅広い教養と視野を身につけることにも力を入れている。通信教育課程の各科目は通信科目・スクーリング科目として開講されており、学生の置かれた環境と各科目形態の利点を踏まえた、効果的な学修が可能となるよう配慮されている。

なお、上記以外の各学科の教育課程・教育内容の特徴は以下のとおりである。

【日本文学科】

「日本文芸学概論」「日本語学概論」等の必修科目に加え、「日本文芸研究特講」16科目から成る選択必修科目を通じて、日本文学・日本語学の各領域を学び、「中国文芸史」「日本芸能史」「日本美術史」等の選択科目を通じて、日本文学に隣接する諸分野についても学べる教育課程となっている。文学・言語・芸能文化の3コース制をとり、卒業論文までの道のりを3つのモデルコースとして示している点も特徴である。

【史学科】

「日本史概説」「東洋史概説」「西洋史概説」「史学概論」を必修科目とし、専門科目の学習段階の初期に広く歴史学にアプローチする機会を設けている。また、このうち「史学概論」を除く概説3科目と「史学演習」をスクーリング選択必修科目としている。選択科目は、歴史学の諸分野を幅広く学ぶ機会を設けるため、各分野から1科目以上50単位の修得を定めている日本史・東洋史・西洋史の各分野の科目群や、「日本考古学」「歴史資料学」等から成り立っている。

【地理学科】

「人文地理学概論（1）」「自然地理学概論（1）」「地理調査法（人文編）」「地理調査法（自然編）」を必修科目とし、基礎的な知識と調査方法を学ぶ場を設けている。また、スクーリング必修科目として「現地研究」等を設け、実地の調査にも力を入れている。選択必修科目では、人文地理、自然地理、地誌・その他の各分野より2科目8単位以上履修するものとし、選択科目では歴史学や経済学等に関わる科目群を配当し、幅広い分野をバランスよく学習することができる教育課程を構築している。

【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

各学科の学科会議においてカリキュラムの検討を行った。その結果、科目名称の変更等の方式により、以下のとおりの改正が行われ、2021年度からのカリキュラムの充実化を図ることができた。

- ・日本文学科「比較文学」の新設
- ・史学科「日本史特講（地域社会史）」の新設

なお、前年度につづき、各学科で卒業保留・留年、休・退学への対応策の検討を進めた。その結果、日本文学科では、学生向けの模範レポートを作成し、通信教育部独自のポータルサイトである「Web 学習サービス」等へ公開した。史学科ではカリキュラムを改正し、魅力あるカリキュラムを提供するとともに、通信科目の科目管理（レポート課題の適切性）について、学科内で再検討を行った。地理学科では、メディアスクーリングを拡充（2科目）するとともに、新規の教科書を採用した。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・『学習のしおり』
- ・日本文学科カリキュラムマップ
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/japanese-literature/subject/curriculum-map.pdf>)
- ・日本文学科カリキュラムツリー
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/japanese-literature/subject/curriculum-tree.pdf>)
- ・史学科カリキュラムマップ
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-map.pdf?date=20200220>)
- ・史学科カリキュラムツリー
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-tree.pdf?date=20200220>)
- ・地理学科カリキュラムマップ
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/geography/subject/curriculum-map.pdf?date=20190314>)
- ・地理学科カリキュラムツリー
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/geography/subject/curriculum-tree.pdf?date=20190314>)
- ・2020年度第7回文学部定例教授会議事録

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2020年度第2回通教関連学科連絡会議議事録

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

通学課程と同様に、各学科とも、カリキュラムの順次性を意識し、年次ごとの科目配置を適切に行っている。すなわち、教養課程の諸科目を1年次より履修可能とし、大学生として必要な幅広い知識の習得を促している。一方、専門教育課程では1年次に概論を中心に配置し、年次進行に即してより高度な科目を配置し、4年次の卒業論文につなげている。

なお、各学科のカリキュラムの順次性・体系性の特徴は以下のとおりである。

【日本文学科】

必修科目では、「日本文芸学概論」「日本語学概論」を1年次より、「文学概論」「日本文芸史Ⅰ・Ⅱ」を2年次より履修可能としている。選択必修科目では、「日本文芸研究特講」6科目を1年次より履修可能とし、学生が興味・関心に合った科目を早期に履修できることとしている。「日本文芸研究特講」10科目は2年次以降の配当とし、さらに選択科目の諸科目は2年次ないし3年次以降の配当とする。なお、1年次より「論文作成基礎講座Ⅰ・Ⅱ」を開設し、レポート・論文の作成に必要な文献検索、文章技法に特化した教育も行っている。

【史学科】

必修科目では、「日本史概説」を1年次より、「東洋史概説」「西洋史概説」「史学概論」を2年次より履修可能としている。選択科目では「日本考古学」「歴史資料学」等を2年次より、その他の科目を3年次より履修可能としている。各科目は、概説・概論系、講義系、特講系、演習系、実習系と、専門性に応じた段階の設定とし、順次性と体系性を重視したカリキュラムを構築している。なお、日本史・東洋史・西洋史の3分野が開講されているスクーリング選択必修科目「史学演習」は専門性が高いため、同分野の概説科目の単位を修得済みであることを受講資格としている。

【地理学科】

必修科目では、「人文地理学概論（1）」「自然地理学概論（1）」「地理調査法（人文編）」「地理調査法（自然編）」を1年次より履修可能としている。選択必修科目の科目群は人文地理、自然地理、地誌・その他の各分野に分かれ、2年次ないし3年次より履修可能としている。学生はこれらの科目の履修を通じて各分野の知識を幅広く習得し、3年次にはスクーリング必修科目「現地研究（人文）」「現地研究（自然）」等を通じて、現場でしか得られない知識・技能の習得に力を入れる。

【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※簡条書きで記入。

- ・年度初めに『学習のしおり』を学生へ送付し、単位修得、教材、カリキュラム、学習システム等の詳細を通知している。
- ・通信学習科目については、年度初めに『通信学習シラバス・設題総覧』を学生へ送付し、テキスト、シラバス、レポート課題、単位修得試験の出題範囲を明示し、履修にあたっての参考情報を提供している。
- ・スクーリング科目については、毎月『法政通信』を学生へ送付し、シラバスを明示し、履修にあたっての参考情報を提供している。
- ・毎年度4月・10月に「初学者向け事務ガイダンス」を実施し、通信教育部の学習の仕組み全般について周知を行っている（ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、教員が講演した「学習ガイダンス」の過去実施分の動画をオンデマンドで配信することで対応したため、今後のあり方を検討する必要がある）。

【日本文学科】

・日本文学科公式サイトに「新カリキュラムについて」というコーナーを設置して、2013年度から始まった新カリキュラムの意義や履修上の注意点等に関する説明を動画配信している。

http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=1848

【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』『法政通信』（シラバスは「webシラバス（講義概要）」でも公開）
- ・<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>通常の学習指導は学習ガイダンスの形式をとり、教員・職員・卒業生によって行われている。その種類と時期は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初学者向け事務ガイダンス（4月、10月） ・卒業生による学習体験の講演＋卒業生個別相談（5月、11月） ・各学科担当教員による、学習活動方法の講演（6月、12月） <p>※ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、教員が講演した「学習ガイダンス」の過去実施分の動画をオンデマンドで配信することで対応したため、今後のあり方を検討する必要がある。</p> <p>また、通信教育課程の特性を生かし、学習質疑制度（郵便）を通じて、科目担当教員による学習指導が行われているほか、Web通信学習相談制度を通じて、通信学習相談員（卒業生）による学習指導も行われている。</p> <p>一方、スクーリング期間中には、オフィス・アワーと授業の前後の時間を通じて、教員による学習指導が行われている。特に、地理学科の「現地研究」は2泊3日で行われるため、学習指導の重要な機会となっている。また、メディアスクーリングでは、ディスカッション機能・質疑応答機能を通じ、科目担当教員による学習指導が行われている。</p> <p>卒業論文の執筆にあたっては、夏期および冬期スクーリング期間中に一般指導が行われている。また、日本文学科では1次指導（文書）、2次指導（面接）、史学科・地理学科では1次指導（文書）、2次指導（面接）、3次指導（文書）が担当教員により行われている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>地理学科では、新型コロナウイルス感染症の影響により夏期スクーリングにおける「現地研究」は中止となったが、冬期スクーリングでは、①参加者が個別に宿泊先を確保することで集団での宿泊を回避した点、②首都圏内と首都圏外でそれぞれ現地研究を実施することで、受講生が首都圏を跨ぐ移動を伴わずに現地研究に参加できるように配慮した点、③屋内の施設を避けるなど密にならない訪問先を中心にコースを立案した点、④複数の教員で現地研究の計画を確認し、密にならない計画が担保されているのかチェックした点について対応することで、同感染症の予防に留意する形で現地研究を実施した。なお、上記の対応を取った結果、冬期スクーリングにおける現地研究は問題なく実施することができた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『学習のしおり』『法政通信』 ・https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/ ・https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/graduation-thesis/ 	
<p>③通信教育課程では、通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>通信教育課程では通信学習科目、メディアスクーリング科目の授業実施自体は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることはなかった。ただし、単位修得試験が会場試験から代替りレポートへ変更となった。スクーリング科目は春期の集中形式のスクーリングと夏期スクーリングを中止としたが、春期スクーリング（夜間）、秋期スクーリング（夜間）および冬期スクーリングについては、オンラインで実施した。また、地方スクーリングは中止となったが、札幌市（10月10日～10月12日）以降のスクーリングの代替として、10月週末スクーリング、11月週末スクーリング、12月週末スクーリングをオンラインで開講した。なお、一部のスクーリング中止によって失われた受講機会の補償として、春期に開講したメディアスクーリングの一部を秋期にも開講したほか、メディアスクーリングにおける履修者制限を緩和する措置などをとった。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度第1回通信教育学務委員会議事録 ・2020年度第2回通信教育学務委員会議事録 ・2020年度第4回通信教育学務委員会議事録 ・2020年度第5回通信教育学務委員会議事録 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通の成績評価基準を教員・学生へ周知し、各教員はそれにもとづき、成績評価を行っている。 ・学科会議において、各学生の卒業時の成績を確認している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・成績評価と単位認定において問題が生じた際には、学科会議で検討している。また、必要に応じて兼任講師とも連携をとり、問題の解決にあたる体制を整えている。

【地理学科】

・卒業論文については、複数の教員で面接試問を行い、そのうえで成績評価・単位認定を全教員で行い、その適切性を確認している。

【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』

1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。

・進級の状況については、毎年度、9月と3月の学科会議と教授会で確認のうえ、承認している。

・成績分布の状況については現在のところ、定期的に確認する手続きを導入していない。ただし、通信教育部事務部より問題が提起された際には、学科会議においてこれを検討する体制となっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度第5・10回文学部定例教授会議事録

②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

文学部では、各学科の専門分野における研究方法の習得と、それにとりまなう課題発見・解決力、思考力、調査力、また、それらを説得力をもって発信するための文章力を有する学生に対し、学位を授与する方針をとっている。そのため、「卒業論文」を必修科目とし、論文に必要な要件を定め、その評価を通じ学習成果を測定している。

【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』

③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。

各学科とも、学習成果の把握・測定は卒業論文審査を通じて行っている。卒業論文面接試問を行ったあと、学科でその内容を評議し、優秀な論文については各学科において、以下のように公表を行っている。

【日本文学科】

指導教員による推薦を経て、法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』に掲載している。

【史学科】

指導教員による推薦を経て、法政大学史学会の機関誌『法政史学』に掲載している。

【地理学科】

法政大学地理学会による「法政大学地理学術大会」での口頭発表・ポスター発表や同学会の機関誌『法政地理』への掲載を積極的に行うよう指導している。また、例年3月に開催される全国地理学専攻学生「卒業論文発表大会」（日本地理教育学会主催）において、法政大学地理学科通信教育課程学生代表として発表するよう指導している。

【2020年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『日本文学誌要』（法政大学国文学会）

・『法政史学』（法政大学史学会）

・『新地理』（日本地理教育学会）

・日本地理教育学会ウェブサイト (<http://www.geoedu.jp/>)

・『法政地理』（法政大学地理学会）

・『学会ニュース』（法政大学地理学会）

・法政大学地理学会ウェブサイト (<http://www.chiri.info/>)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・学部および各学科のPDCAサイクルが円滑に機能し、カリキュラムの点検を不断に行い、教育改善に努めている。	1.1①
・中期目標に卒業保留・留年、休・退学の減少に向けた取り組みの実施を掲げ、それにもとづき、カリキュラム改正、メディアスクーリングの導入、教科書の変更、レポート課題の見直し、参考資料の充実化などを実施している。	1.1①
・各学科とも学内学会、機関誌を有し、通信教育課程に所属する学生の成果も積極的に発表している。	1.4③

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・新型コロナウイルス感染症下での履修指導・学習指導のあり方の検討。	1.2①②
・成績分布の把握の実施についての検討。	1.4①

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程では、前年度に引き続き教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。必修科目や選択必修科目、専門科目が体系的に提供されており、また卒業論文を必修とし、学生が能動的に研究する力を習得することができ、さらに教員免許状取得のための教育課程を編成している点で、カリキュラムの順次性・体系性が確保されている。学生に対する履修指導は、『通信学習シラバス・設題総覧』、『法政通信』などで情報を随時提供し、年2回初学者向けのガイダンスがオンデマンド動画によって配信された。学習指導では、各種のガイダンスの動画配信、科目担当教員に向けた学習質疑制度、卒業生によるWeb通信学習相談制度が設けられている。またスクーリングは、教員による集約的な学習指導の機会であり、地理学科のフィールドワーク系科目「現地研究」も感染症予防の策を講じることで夏期は中止したが冬期は実施されていることは評価できる。

成績評価基準は学生に周知され、教授会での配布により教員にも確認されている。また学科会議が卒業時の成績評価と問題解決にあたり適切に対応されている。進級状況は教授会と学科会議で承認し、成績分布は事務部からの問題提起があった場合のほか、随時学科会議で確認を行い、学科単位で把握している。インタビューによると、今年度は指摘がなかったとのこと。

分野の特性に応じた学習成果を測定するため、卒業論文を必修科目とし学位授与を行う取り組みが行われている。具体的な学習成果を把握・評価するための方法も、卒業論文審査を通じて行われており、面接試問を実施、機関誌や発表会を通じて公表するような指導が行われている。

2 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。

①その他、通信教育課程として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

新型コロナウイルス感染症にともない、授業や学習指導の予定に変更が生じた場合は、随時、通信教育部ホームページで情報を発信した。また、1.2①②に記述したとおり、実施を見送ることになった各種学習ガイダンスについては、教員が講演した「学習ガイダンス」の過去実施分の動画をオンデマンドで配信することで対応した。また、夏期スクーリング科目を中止したことにより2020年9月の卒業を予定し

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

ながら卒業が延期となった学生に対し、2020 年後期分の教育費 4 万円（科目等履修生は継続料 3 万円）を減免することとした。

【根拠資料】

- ・ <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/>
- ・ 2020 年度第 5 回通信教育学務委員会議事録

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程では、COVID-19 下の学生支援として、ホームページでの情報発信が重視され、指導の予定変更などが周知された。また学習ガイダンスを行えない代替措置として、オンデマンド動画が配信され、学生の学習環境の整備が行われた。インタビューによると、春期スクーリングでは、通学課程への乗り入れという事情があり、統合認証 ID を付与して通学課程学生と同様に学習支援システムを通じた対応ができた。夏期スクーリング科目の中止で 2020 年 9 月卒業予定者のうち卒業延期となった学生に対して教育費が減免される措置がとられたことは、COVID-19 下の対応として評価できる一方、インタビューによると、2021 年度はオンラインで実施されるため同様の問題は起きないものの、今後と同様なことがあったときの対策を決めていくことが望ましい。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。	
	年度目標	各学科において、カリキュラム、教育内容（初年次教育を含む）について検証し、必要に応じて改編を行う。	
	達成指標	カリキュラム、教育内容を検証するための学科会議を開催する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		各学科の学科会議において、カリキュラム、教育内容を検証した。その結果、第 7 回教授会において、日本文学科・史学科のカリキュラムの一部改正を行った。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、スクーリング科目におけるアクティブ・ラーニング、双方向型授業等のさらなる導入を図る。	
	年度目標	学生を対象に、アクティブ・ラーニングや双方向型授業の効果・要望を聴き取り、教員間で情報を共有する。	
	達成指標	教授会において情報共有の機会を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		・ 2020 年 6 月 3 日、教学改革委員会後に情報交換会を開催し、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングに関する情報を共有した。また、各学科の学科会議で同種の情報共有を行ったほか、兼任講師を交えた情報交換会を日本文学科（7 月 29 日）、史学科（7 月 1 日）、地理学科（7 月 22 日）で開催した。 ・ 2020 年 11 月 25 日、学生モニターを対象に、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングに関する聴き取り調査を行い、結果を第 9 回教授会で報告した。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、卒業論文以外の科目における学習成果の測定方法について検討を深め、点検・評価活動へ活用する。	
	年度目標	初年次教育を対象に、「学習成果の測定」に関する事例、課題について情報を共有する。	
	達成指標	教授会において情報共有の機会を設ける。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	教授会では情報共有の機会を設けられなかったが、学科単位で（例：日本文学科のFDミーティング）、初年次教育におけるオンライン授業の効果的な実施方法や課題の出し方、新入生指導のあり方等について検討と情報共有を行った。
		改善策	—
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。	
	年度目標	専門分野に対する関心と、大学での学習に意欲をもつ学生をより適切に受け入れるために、出願時に提出を求める「志願書2」の課題設定の検証を行い、必要に応じて修正を施す。	
	達成指標	学科会議において左記の検証・審議を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		各学科の学科会議において、「志願書2」の検証を行い、その効果を確認した。その結果、第4回教授会において、2021年度学生募集においても内容を変更しないことを決定した。	
	改善策	—	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。	
	年度目標	年齢、国際性等の観点で教員組織の現状を検証し、さらなる多様性の追求を図る。	
	達成指標	人事委員会において左記を検証し、各学科の新規採用人事に向けた情報を提供する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		第1回人事委員会において、専任教員の年齢構成について確認を行った。	
	改善策	—	
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況をこれまでどおり適切に把握したうえで、卒業保留・留年、休・退学の減少に向けた課題を精査し、教育上の取り組みに反映させる。	
	年度目標	前年度、通信教育部事務部の協力を得て行った、卒業保留・留年、休・退学への対応策を実施に移す。	
	達成指標	通教関連学科連絡会議を開催し、左記について実施報告を行う場を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		前年度につづき、各学科で卒業保留・留年、休・退学への対応策の検討を進めた。その結果、日本文学科では、学生向けの模範レポートを作成し、web学習サービスへ公開した。史学科ではカリキュラム改正し、魅力あるカリキュラムを提供するとともに、通信科目の科目管理（レポート課題の適切性）について、学科内で再検討を行った。地理学科では、メディアスクーリングを拡充（2科目）するとともに、新規の教科書を採用した。	
	改善策	—	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。	
	年度目標	社会人へ学習の機会を広げる方策として、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用を他学部と連携して検討する。	
	達成指標	市ヶ谷コミュニティ連携会議において、学部長が左記の必要性を指摘し、検討の俎上に載せるようにする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
	理由	これまで学部長が通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用の必要性を市ヶ谷コミュニティ連携会議で発言してきたことが寄与したかは不明だが、2021年度より	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		社会人学び直し、市民教育を推進する組織としてリカレント・通信教育センターが設置されることとなった。
	改善策	—
<p>【重点目標】 前年度、通信教育部事務部の協力を得て行った、卒業保留・留年、休・退学への対応策を実施に移す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 各学科において卒業保留・留年、休・退学への対応策を実施し、その結果を第2回通教関連学科連絡会議で報告する(2021年2月予定)。</p>		
<p>【年度目標達成状況総括】 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で各種の会議がオンライン形式となったため、議論や情報共有の場が大きく制約された。しかし、そのようななかでも、各学科、カリキュラム改革の議論を積極的に進め、複数の学科で研究の進展に対応した科目新設を決定したことは評価できる。また、前年度から継続して取り組んでいる卒業保留・留年、休・退学への対応策の検討では、日本文学科では模範レポートの公開、史学科ではカリキュラム改正とレポート課題の適切性の点検の実施、地理学科ではメディアスクーリングの拡充、新規教科書の採用等の成果が出た。次年度以降もこうした取り組みを続けてゆくことが大切である。</p>		

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>文学部通信教育課程の2020年度目標の達成状況に関して、COVID-19下で議論や情報共有の場が制約されるなかで、教育課程・学習成果の年度目標である「各学科において教育内容を検証し改編を行う」ことについてカリキュラム改革の議論を積極的に進め、複数の学科で科目新設を決定したことは高く評価できる。一方、重点目標であった、卒業保留・留年、休・退学への対応策を実施する点では、学科ごとにカリキュラムの再検討にあわせて模範レポートの公開(日本文学科)、レポート課題の適切性の点検(史学科)、メディアスクーリングの拡充や新規教科書の採用(地理学科)などの措置がとられ、2020年度第2回通教関連学科連絡会議で共有された。次年度もさらに取り組みを継続し、成果をあげていくことを期待したい。</p>

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
	年度目標	各学科において、カリキュラム、教育内容(初年次教育を含む)について検証し、必要に応じて改編を行う。
	達成指標	カリキュラム、教育内容を検証するための学科会議を開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、スクーリング科目におけるアクティブ・ラーニング、双方向型授業等のさらなる導入を図る。
	年度目標	学生を対象に、アクティブ・ラーニングや双方向型授業の効果・要望を聴き取り、教員間で情報を共有する。
	達成指標	教授会において情報共有の機会を設ける。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、卒業論文以外の科目における学習成果の測定方法について検討を深め、点検・評価活動へ活用する。
	年度目標	初年次教育を対象に、「学習成果の測定」に関する事例、課題について情報を共有する。
	達成指標	教授会において情報共有の機会を設ける。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
	年度目標	専門分野に対する関心と、大学での学習に意欲をもつ学生をより適切に受け入れるために、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		出願時に提出を求める「志願書2」の課題設定の検証を行い、必要に応じて修正を施す。
	達成指標	学科会議において左記の検証・審議を行う。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
	年度目標	年齢、国際性等の観点で教員組織の現状を検証し、さらなる多様性の追求を図る。
	達成指標	人事委員会において左記を検証し、各学科の新規採用人事に向けた情報を提供する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況をこれまでどおり適切に把握したうえで、卒業保留・留年、休・退学の減少に向けた課題を精査し、教育上の取り組みに反映させる。
	年度目標	前年度、通信教育部事務部の協力を得て行った、卒業保留・留年、休・退学への対応策を実施に移す。
	達成指標	通教関連学科連絡会議を開催し、左記について実施報告を行う場を設ける。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
	年度目標	社会人へ学習の機会を広げる方策として、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用を他学部と連携して検討する。
	達成指標	市ヶ谷コミュニティ連携会議において、学部長が左記の必要性を指摘し、検討の俎上に載せるようにする。
<p>【重点目標】 社会人へ学習の機会を広げる方策として、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用を他学部と連携して検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 リカレント・通信教育センターと協働し、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用をいっそう推進する。また、市ヶ谷コミュニティ連携会議において、学部長が左記の必要性を指摘し、検討の俎上に載せるよう働きかける。</p>		

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

文学部通信教育課程の 2021 年度目標設定については、前年度を継承発展し、カリキュラム検証とアクティブラーニング、双方向型授業の導入に取り組み、学生からのフィードバックの聴き取りや教員間での情報共有を通じて、大きな成果が期待される。学習支援では、前年度からの目標である卒業 保留・留年、休・退学者の減少に向けた対策や、社会人学習の拡充なども、今年度のさらなる実施や検討が掲げられ、適切な目標設定となっている。さらに教員・教員組織について、専任教員の採用拡充を軸に、国際性や年齢構成の点で多様性をもった教員構成の実現を、新たな目標として掲げている。

【大学評価総評】

文学部通信教育課程では、学習指導についてメディアスクーリングを導入した後、スクーリングを通じた学習指導を拡充し、卒業保留・留年、休・退学状況の改善も目標としながら模範レポートの提示や課題内容の再検討、新しい教科書・教材が導入されるなどの改善を学科が取り組んでいる点が評価できる。COVID-19 下で、ガイダンスやスクーリングをオンラインに切り替えて、補充しながら一部は冬期に移行するなどの対応を行ったことは高く評価できる。

文学部通信教育課程の特色は、卒業論文が必修科目となり学生の主体的な研究を指導していることである。優秀な卒業論文に対し、学科ごとに機関誌や大会で公表するよう指導していることは、学生のモチベーションを高め、学習成果を共有・把握することを促しており、高く評価される。アクティブラーニングや双方向型学習の拡充や成績分布の把握が検討されており、今後の成果が期待される。

教員負担の解決のため、通学・通信教育の両課程でのオンライン授業コンテンツを共有することや、2021 年度から発足したりカレント・通信教育センターと協働し履修証明プログラムの活用を一層促進することなど、新たな方法を通じた問題解決が画策されている。今後の改善が期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。